



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和3年
5月18日
第2号



新年度がスタートして1ヶ月が経ちました。5月の連休は、ゆっくり休めたでしょうか。新型コロナウイルス感染症防止対策においては、5月末まで緊急事態宣言が発令され、より一層の感染拡大防止対策が求められますが、コロナに負けずみんなでこの1年間を乗り切っていきましょう！

市教育委員会で発行する「市教委だより」に、学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載し、少しでも先生方に元気をお届けできたらと思います。今年度は、連載記事に「学校図書館教育」を加え、先生方の教育実践に役立つホットな情報を伝えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携・接続の充実

令和3年4月30日（金）に、幼保小連携担当者会を開催しました。

スタートカリキュラム授業公開
(廿日市小学校〈動画視聴〉)



いろいろな友達と関わる中で、考え、判断する力、協調性などを身に付けることができます！

協議「幼保小連携・接続の充実について」

- ・幼保小それぞれの取組に寄り添うことで、連携・接続がスムーズにできている。
- ・入学前だけでなく、入学後の連携も必要。
- ・自信をもって小学校へ行けるように、子ども達のマイナス面だけでなくプラス面についても情報共有することが大切。



幼稚園・保育園・小学校のそれぞれがどのような取組をして、子ども達がどのような学びをしているのかを互いに知り、幼稚園・保育園での学びを小学校につなげることができるよう、さらなる連携をしていただきたいと思います。子ども達が安心感と期待感をもって学校で過ごすことができるようにしていきましょう！

廿日市市プログレス研修（第1回生徒指導主事研修）の実施から見たこと

令和3年4月14日（水）に、廿日市市プログレス研修（第1回生徒指導主事研修）を実施しました。オンラインでの研修でしたが、操作等に慣れてきた先生方も多く、円滑に進行することができました。一方で、PCやネットワークの問題により、音声が届かなくなったり不明瞭だったりすることが一部あり、実施の上での課題も残りました。研修ワークシートやアンケート等から、本研修の成果の一部を以下に紹介します。

- ・いじめ認知件数に急激な減少が見られることについて、生徒指導主事として実感していることを協議したところ、ほとんどの学校が認知件数を「適正」もしくは「どちらかと言えば適正」であるととらえていました。積極的生徒指導により学校が落ち着いてきていることや、校内いじめ防止対策委員会での協議により積極的な認知に努める学校が増えていることが分かりました。引き続き、いじめの定義に則り、小さいいじめも見逃さず適切な認知を行うことについて校内で意識統一を図るとともに、つながり支援プロジェクトの日常化等を通じた未然防止の指導・支援に努めていただくようお願いします。
- ・廿日市市子ども相談室主任指導員の山本泰昌先生より講話がありました。通室する子どもたちに見られる傾向や、登校した際に配慮してほしいこと等についての内容は、生徒指導主事の先生方にも実感をもって伝わるものであり、「子ども相談室と密なる連携を図ることが、子どもたちへの支援に直結することが分かった。」「子ども相談室の先生方と同じ方向を向いて支援するためにも、連携をより深めていきたい。」といった感想が寄せられました。

本研修実施により各校生徒指導主事の先生方と共通理解したことを土台とし、全小・中学校で子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進めてまいりましょう。



目指せ！日本一の図書室！

皆さんは、読書が好きですか？

スマートフォン等便利な道具があふれ、いつでも簡単に情報を集めることができる今の時代、大人だけでなく、子ども達の生活環境も変化し、子どもの「読書離れ」が指摘されています。

各校においては、読書好きを増やし、読書習慣を定着させることを目指し、図書室の環境整備や教科等と関連付けた読書活動など、様々な工夫をしながら取り組まれています。



先生おすすめ本の紹介（原小学校） しおりコンクール（四季が丘中学校）

このコーナーでは、各校で実践されている図書館教育の取組の工夫を紹介しながら、それぞれのアイデアを参考にして、「児童・生徒が行きたくなる図書室」「児童・生徒が手に取りたくなる本」の実現に向けて、学校図書館の充実を図っていきます。



特別支援教育の視点に基づいた 学習指導と生徒指導

【今年度のキャッチフレーズ】
～多様な子どもに多様な支援で
「誰一人取り残さない」指導の工夫を～



授業が「分からない」「出来ない」、先生の指示が「聞けない」「守れない」ことを、子どものせいにならない。
マイノリティも大切にする廿日市へ。

☆3つの柱☆

適切にアセスメントする力と対応力の向上

子どもの困り感の要因に迫る。

ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育活動
支援が必要な子どもの立場に立った支援は他の子どもにとっての分かりやすさにつながる。

家庭や関係機関との丁寧な連携

保護者と一緒に、支援内容とその結果を共有。
困り感の解消に向けて、関係機関の知恵を借りる。

一人一人の特性や障がいだけでなく、国籍、性別、言語、家庭環境、家庭経済力など、これからの社会は、みんなと違うことが当たり前になります。

学校と家庭、関係機関、市教委とが連携を図りながら一人一人の子どもたちの未来をつくっていきましょう！

ICT活用への道

子ども主体のICT活用を！

数年前から廿日市市立学校では電子黒板の整備を、段階を踏みながら進めてきました。そして、授業で視覚的な支援ができるツールとして、電子黒板は活用されてきました。デジタル教科書（指導者用）を投影させ、子ども達が授業で学ぶ内容を理解するために用いられる場面が多かったと思います。

令和2年度にGIGAスクール構想が急速に進み、一人1台端末が整備され、今後子ども達の学び方がさらに変化していきます。「子ども達が主体となった多様な学び」の実現です。先生が主体となる一斉学習や協働学習ではなく、子ども達が自ら学び、思考を深め、課題を解決するために、ICTを思考の道具の一つとして子ども達が活用する授業を実践するための研究を廿日市市で進めていきましょう。

「何かを調べたり、協働して作品を作ったり」ということを様々な手法でさせたいと思っても、これまでは「他のクラスがパソコン室を使っているから、本で調べるしかないなあ。」「グループで作成させたいものがあるけれど、模造紙とマジックで書かせるしかないなあ。」という状況でした。「本で調べる」「手書きする」ということが全く必要でないということはありませんが、子ども達が使える端末がそろったということは、必要に応じて調べる方法や表現する方法が選べるということです。課題を解決するために、場面に応じた手法、自身に最適な手法で、思考を繰り返す子ども達の姿を目指しましょう。

昨年度、このコーナーでは、Googleの機能的なことや、国の動向を中心にお伝えしてきましたが、今年度は次号より、各学校の取組を紹介していきたいと思えます。